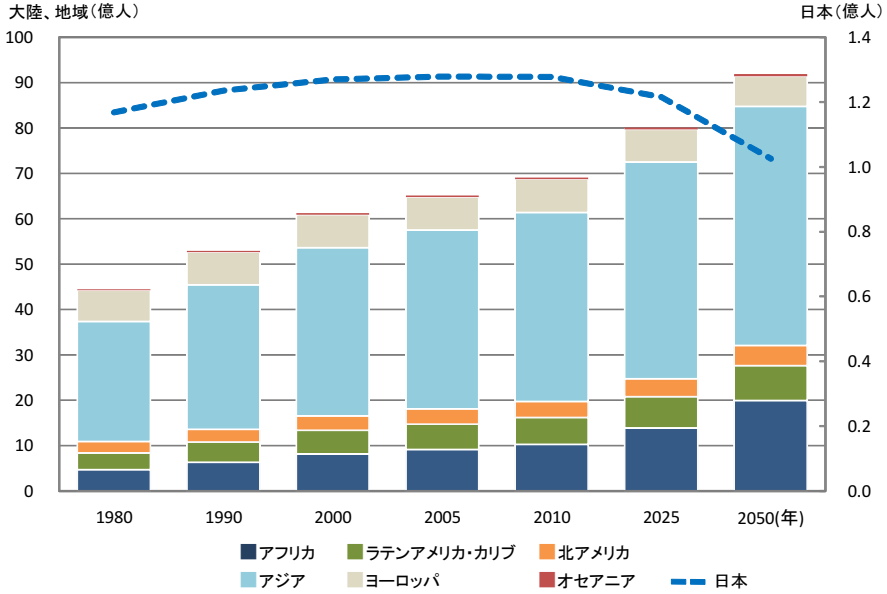
2-1　世界、大陸及び主要地域の人口



▶▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については，「第2-1表　総人口」(p.59)を参照。

20世紀初頭に約15億人であった世界人口は，1950年以降飛躍的に増加し，1975年以降増加率は低下したものの，2000年には61億人に，2005年には65億人に達した。

国連が隔年ベースで公表する『世界人口予測』の2006年改訂版(本書の資料出所)によれば，2005年から2010年にかけては年率1.17％，年間7,836万人の人口増加が見込まれ，2050年には中位推計で約92億人に達する見通しである。予測される人口増加の大半は発展途上地域であるが，たとえ出生率が低下しても大きな人口増加が見込まれるのは，人口規模の大きいインド，ナイジェリア，パキスタン，コンゴ，アメリカ合衆国，エチオピア，バングラデシュ，中国――の8か国で，世界全体の人口増加の過半数を占める。

現在の先進地域の人口は12億人であるが，今後2050年までほぼ同水準で推移する予測であるが，年間平均230万人規模と見込まれる途上地域から先進地域への移民規模を下回れば，さらに減少する見通しである。一方，発展途上地域の人口は，2007年時点で54億人であったものが，2050年には79億人に増加する見込みで，とりわけアフガニスタン，ブルンジ共和国，コンゴ，ギニアビサウ共和国，リベリア，ニジェール共和国，東ティモール民主共和国，ウガンダといった最後発諸国（LLDC）の人口は3倍以上増加する予測である。2050年には，人口の86％が発展途上地域に属すると推測されている。